

主要農作物の生産振興について

令和8年2月
農林水産部農産園芸課

目次

<u>I 農作物生産の概況</u>	4
<u>II 農作物の生産振興方策と取組</u>	5
1 野菜	
2 水稲・麦・大豆	
3 果樹・茶	
4 花き	
5 農業機械・生産資材対策	
<u>III スマート農業の推進</u>	19
1 ひょうご型支援体制の構築	
2 土地利用型農業のスマート農業技術の普及・定着	
3 施設園芸における環境制御技術の普及・拡大	

ひょうご農林水産ビジョン2030施策体系表における位置づけ

【めざす姿】

御食国ひょうご 令和の挑戦
 ↳都市近郊の立地を活かした農林水産業の
 基幹産業化と五国の持続的発展↳

【基本方向】

【基本方向1】
 基幹産業として持続的に
 発展する農林水産業の
 展開

【基本方向2】
 県民が安心して暮らせる
 活力ある地域の創出

【基本方向3】
 「農」の恵みによる健康
 で豊かな暮らしの充実

【推進項目】

- 1 スマート化による新しい農林水産業の実現
- 2 多様性と都市近郊の立地を活かした力強い農業の展開
- 3 需要に応じた高品質な畜産物の生産力の強化
- 4 木材利用の拡大と資源循環型林業の推進
- 5 豊かな海と持続的な水産業の実現
- 6 農林水産物のブランド力強化と生産者所得の向上
- 7 食の安全を支える生産体制の確保
- 8 特色を活かした活力ある地域づくりの推進
- 9 農山漁村の防災・減災対策の推進
- 10 豊かな森づくりの推進
- 11 食と「農」に親しむ楽農生活の推進
- 12 「農」と多様な分野との連携強化
- 13 県民への農林水産物の安定供給と県産県消の推進

□ : 資料に掲載している施策項目

I 農作物生産の概況

令和5年農業産出額1,677億円のうち、**耕種部門が949億円**（うち米441億円、野菜396億円）と農業産出額の約6割。

近畿6府県4,914億円の約3分の1を占めており、京阪神都市圏の食料生産基地として重要な地位にあるとともに、五国の多様な自然環境のもと水稻や野菜など多彩な農産物を四季折々に生産。

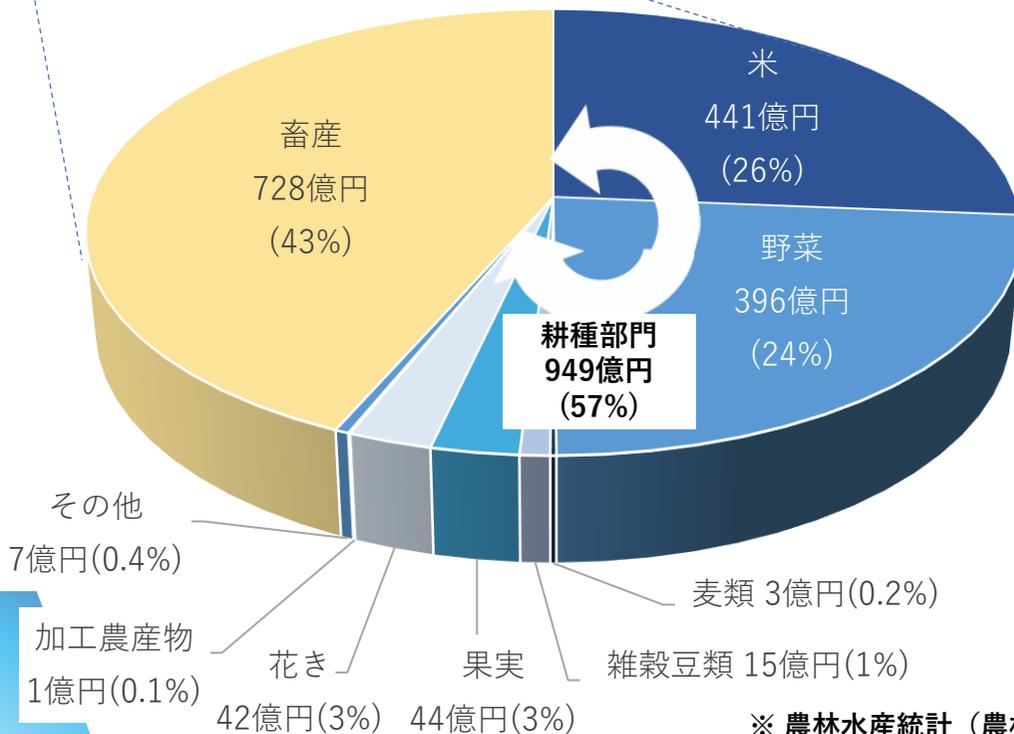
酒米の「山田錦」、黒大豆の「丹波黒」の生産量が全国1位であるほか、「たまねぎ」、「レタス」、「いちじく」、「カーネーション」等は全国上位。

近畿の農業産出額（令和5年）4,914億円

【兵庫県の生産量が全国上位の品目】

兵庫	和歌山	京都	滋賀	奈良	大阪
1,677億円 (34%)	1,128億円 (23%)	766億円 (16%)	610億円 (12%)	413億円 (8%)	320億円 (7%)

品目		生産量	全国シェア (%)	全国順位	主な産地
米	山田錦 (酒米)	18,007 t	53.7	1	播磨
大豆	丹波黒 (黒大豆)	569 t	46.3	1	丹波・播磨
野菜	たまねぎ	77,600 t	6.9	3	淡路
	レタス	21,600 t	4.0	6	淡路
	キャベツ	21,900 t	1.7	11	淡路・神戸
果樹	いちじく	966 t	10.7	4	神戸・淡路・阪神
	びわ	72 t	3.9	6	淡路
花き	カーネーション	15,400 千本	9.0	4	淡路
	花壇用 苗物類	23,400 千鉢	4.7	6	神戸・播磨



※ 農林水産統計（農林水産省調べ）。ただし、米・大豆は農産園芸課調べ。
 ※ 令和6年産。ただし、いちじくは令和4年産。

※ 農林水産統計（農林水産省調べ）

II 農作物の生産振興方策と取組

都市近郊立地の優位性や多様な自然環境に恵まれた本県の特性を最大限に活かし、野菜等の生産を振興。

1 野菜

多様な販路・多彩な品目において、**安全安心で新鮮な野菜の生産拡大を支援。**

生産機械・集出荷施設の導入や需給調整を行い、**安定的かつ計画的に供給する野菜産地の育成等**を推進。

(1) 県産野菜の安定供給に向けた国・県野菜指定産地の育成

ア 野菜指定産地制度による産地づくり

大規模かつ主要な品目を生産している産地は「国指定産地」として指定されており、本県では10品目延べ20産地が指定、**県産野菜出荷量の約64%を生産。**

国指定野菜以外の品目や「国指定産地」に満たない県内の主要な産地は「県指定産地」として県が指定し、12産地で延べ85品目あり、**県産野菜出荷量の約6%を生産。**

関連制度として、野菜の価格安定制度、指定産地向けの整備事業、災害補償金の交付を実施。

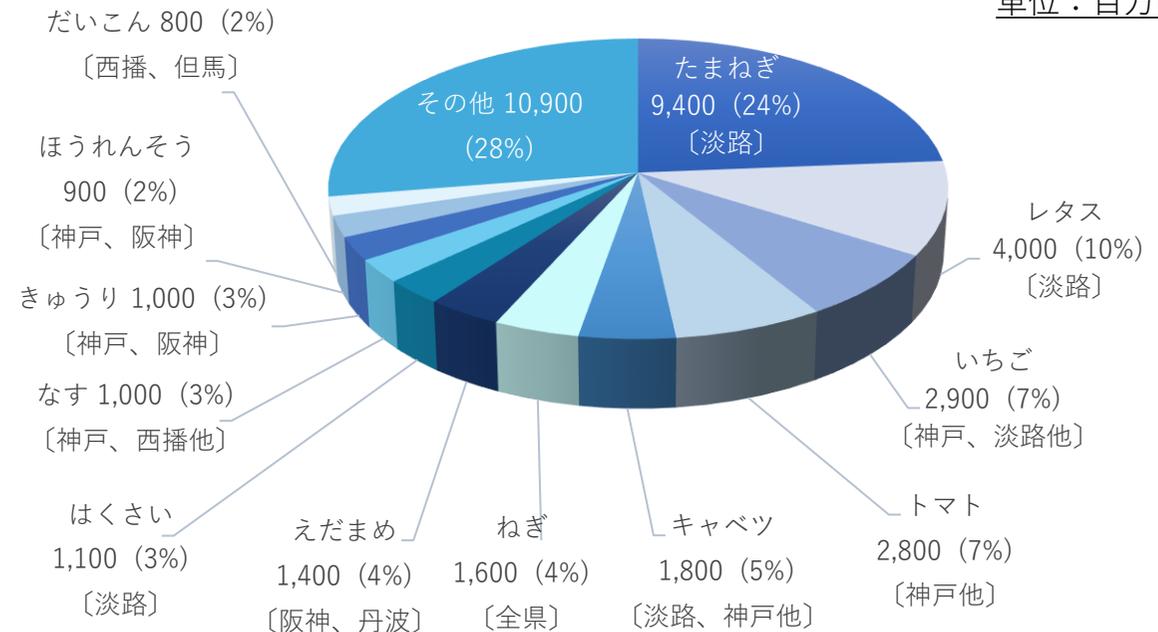
イ 価格安定制度の活用による安定供給

国及び県の指定産地の対象品目において、**市場価格が一定基準を下回った際には、その差額を補填し、生産者の経営への影響緩和と市場への安定供給に寄与。**【令和6年度実績】補填金交付額 10百万円※

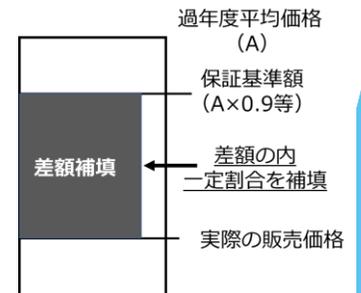
※ 天候不順の影響で野菜価格が高騰したため交付額は例年より低水準。

野菜産出額（令和5年）39,600百万円

単位：百万円



※ 農林水産統計（農林水産省調べ・いも類含む）



差額補填のイメージ

II 農作物の生産振興方策と取組

(2) 新たな産地の育成

県育成品種の黒大豆枝豆「ひかり姫」、秋冬ネギ「ひょうごエヌワン」等の**新品種を活用した産地づくり**の取組を支援。

《今年度デビュー 秋冬ネギ「ひょうごエヌワン」》

令和6年まで試験栽培を行っていた「ひょうごエヌワン」の栽培が
 全県でスタート。

栽培講習会の開催やレシピ集、のぼり、ポスター等資材の作成のほか、
 全国ねぎサミットでのPRを実施し栽培面積を拡大。

(令和7年度 生産面積1.5ha)



全国ねぎサミットで「ひょうごエヌワン」を出展（朝来市）

(3) GAP（農業生産工程管理）取組の推進

農業生産の各工程が、産地や農産物への信頼性の確保、農作業等の事故防止、環境への配慮等を踏まえた望ましい工程となるよう、**生産者自らが実施・記録・点検・評価等の各手法を持続的に改善**していく取組を推進。GAP指導員を育成し、現地指導や研修会等による生産者等への情報提供・普及啓発を実施。

(4) 県産野菜の消費拡大・認知度向上

県産野菜の魅力を量販店等の実需者や消費者に伝え、県産野菜を選んでもらうため、**産地と消費者が「価値」で結びつくバリューチェーンの構築**を推進。

ア 実需者向け県産農産物の魅力発信

県産野菜の魅力を伝える取組として、調理師学校の学生を対象に、県産野菜を紹介しながらそれらを用いた実習等を実施。

イ 消費者向け県産野菜のPR

県産野菜の需要喚起のため、親子料理教室の開催や、旬の野菜をテーマとしたレシピ提供による食べ方提案、産地の生産者の紹介を交えた県産野菜フェアを量販店で実施。



県産野菜等をテーマにした親子料理教室（神戸市）

II 農作物の生産振興方策と取組

2 水稻・麦・大豆

(1) 水稻

本県農地の9割以上は水田であり、水稻栽培は農地の維持管理上も重要な役割。

主食用米の生産は、県民の消費量の約5割の状況である中、他県産に負けない**競争力のある兵庫米づくり**を推進。

ア 環境創造型農業を基本とした良食味米の生産拡大

土づくりや緑肥利用による化学肥料低減など環境創造型農業を基本としつつ、生育診断による適切な追肥施用、適正な水管理、適期刈取り等を指導し、主食用米の良食味化及び安定生産を推進。

イ 多様なニーズに対応した米生産の推進

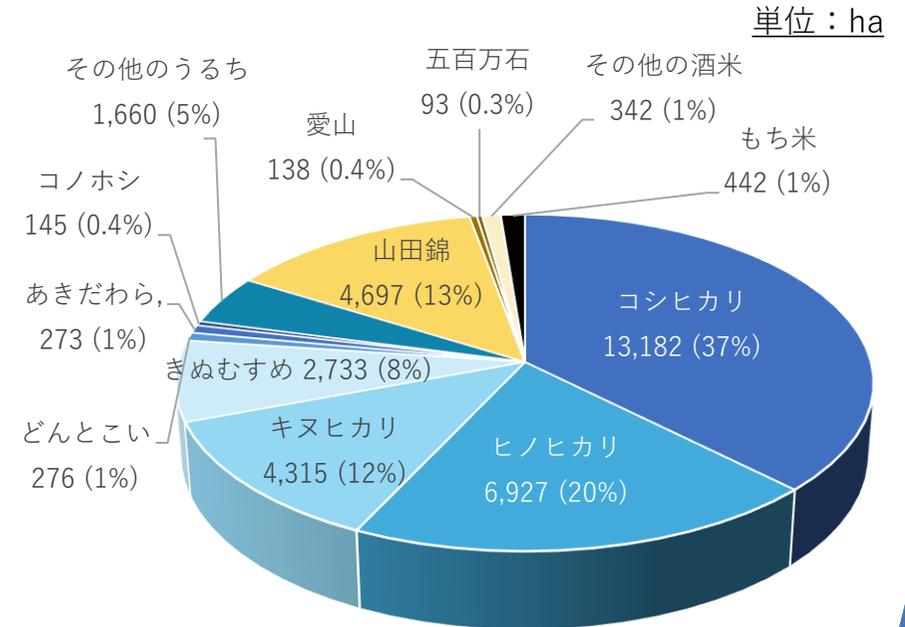
加工用、業務用、学校給食用等の特定用途米に対して、実需者、生産者団体、行政等が連携して、多様なニーズに対応するとともに、外食産業等と結びついた業務用等多収性品種の安定生産技術の確立を推進。

ウ 温暖化等気象変動に対応した良食味米の安定生産

地球温暖化が進む中、水稻の白未熟粒の発生など品質の低下に対応するため、平成28年度からJAグループと県の共同研究により、**高温耐性があり、食味に優れた新品種**を、世代促進温室などを活用し、育種期間を短縮する育種方法（従来14年間→9年間）により育成。

第1弾としてキヌヒカりに替わる新品種「コ・ノ・ホ・シ」を令和7年9月に販売開始。ヒノヒカリ代替は令和10年、コシヒカリ代替は令和13年の一般栽培開始を目標に育成。

令和7年産水稻作付品種別面積 35,222ha



※ 農産園芸課調べ

《ヒノヒカリ代替試食意見交換会》

ヒノヒカリ代替候補5系統について、兵庫県米穀事業協同組合（米卸業者）と連携し、試食意見交換会を開催。

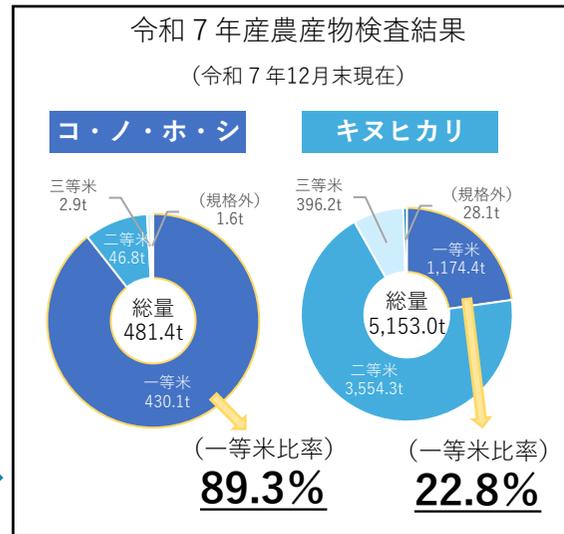
本食味評価や栽培試験の結果をもとに令和7年度末に3系統に選抜予定。



試食意見交換会

II 農作物の生産振興方策と取組

ひょうごの水稲オリジナル品種の育成と全体計画		育種目標：高温耐性・良食味品種									
	H28～R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	
コノホシ (キヌヒカリ代替)	交配・固定・選抜等			デビュー・一般栽培							
	10,000系統	→ 5系統	→ 3系統	→ 2系統	→ 1系統						【参考】キヌヒカリ面積(R5)：4,500ha 150ha→1,500ha→4,500ha→全面転換
ヒノヒカリ代替	交配・固定・選抜等						デビュー・一般栽培				
			10,000系統	→ 5系統	→ 3系統	→ 3系統	→ 1系統				
コシヒカリ代替	交配・固定・選抜等									デビュー 一般栽培	



① コノホシPR方針

～県民がホシ（地球）のことを想いながらいただくお米～

- 「温暖化」による米の品質低下に対応し、開発者、生産者、販売者が一体となって品種開発に取り組んできた**ストーリー性をアピールし、取組への理解と共感を醸成。**
- 県内の米消費量が生産量を上回るため、県内供給を基本とする「**地産地消**」や「**SDGs**」をキーワードにPR。
- JA・MYひょうご及びひょうご推奨ブランドの取得など環境に配慮した生産。

兵庫県のR6米流通量試算

② コノホシ販売開始までのスケジュール

- 令和6年 9月末 協議会HP立ち上げ
- 10月 育成経緯や推進方針等を記者発表
- 令和7年 2月 名称・ロゴの発表 品種登録出願
- 5月 栽培開始 (147ha)
JA兵庫六甲、JA兵庫南、JAみのり、JA兵庫みらい、JA兵庫西、JA淡路日の出、JAあわじ島
- 9月 収穫 (出荷量479 t)
- 9月22日 初出荷式
- 26日 一般販売開始

統一精米袋デザイン

II 農作物の生産振興方策と取組

(2) 酒米（酒造好適米）

本県の酒米出荷量は全国の約2割、山田錦の生産量は全国の約5割を占めるなど、本県は日本一の酒米産地。ブランド力の更なる強化に向け、県酒米振興会をはじめ、JAグループ等の関係機関が一体となり、**スマート農業技術を活用した高品質栽培体系の確立**や**県産酒米の需要拡大**に係る取組を推進。

ア 高品質酒米の安定生産

温暖化等の影響による酒米の品質低下に対応するため、**衛星画像等を活用した生育ムラの可視化と穂肥診断及び刈取適期診断アプリ等**を活用した実証ほを県内15か所に設置し、品質向上に向けた施肥技術等のより一層の改良を促進。

イ 県産酒米及び日本酒の需要の拡大

国内の日本酒需要は減少傾向にあるが、海外での日本食ブームを背景に日本酒の輸出が拡大。

県では、**輸出向け商品の開発、国際品評会への出展支援**や**海外バイヤーを県内酒蔵に招いた商談会**などを支援。

さらに、日本酒の原料となる「酒米の王者・山田錦」の優位性をより強く発信するため、海外（フランス）の品評会内のセミナーで生産者自らが山田錦の特徴や品質をPR。

ウ 有機等酒米を使用した日本酒づくりの推進

令和4年10月の日本酒の有機JAS認証制度の開始を踏まえ、県産酒米・日本酒のブランド力強化のため、県内の酒米生産者と連携した有機等の酒米を使用した日本酒づくりを支援。

《パリの酒類展示会「Whisky Live Paris」山田錦セミナー》

酒サムライ認定者や最高職人勲章を持つソムリエの解説のもと、生産者が気候風土や栽培への思いを直接伝える「テロワール重視」の取組を世界の酒類関係者にPRし、兵庫県産山田錦の魅力を発信。



山田錦の生産者が酒米づくりについて説明

《海外バイヤーの県内酒蔵への招へい》

県産酒米を使用した県内酒蔵の日本酒サンプルに興味のある海外バイヤーに送付し、マッチングを推進。

令和7年7月にマレーシアの海外バイヤーを県内3酒蔵に招へいし、酒造りはもちろんのこと、酒米を生産するほ場など、テロワールを意識した商談を実施。



海外バイヤーとのマッチング（加古川市）

II 農作物の生産振興方策と取組

(3) 麦

国産麦の需要が拡大する中、菓子・パン用、製麺用、醤油用、麦茶用などそれぞれの用途に応じた品種選定や基本技術の励行など栽培管理の徹底により、**実需者ニーズを的確に捉えた生産振興・拡大**を実施。

ア 安定した品質を確保するための栽培技術の確立と品種選定

用途により品種や栽培方法が異なることから、用途別に計画生産量を確保できるように新品種選定と高タンパク化に対応した省力施肥体系の実証、排水対策や土づくりなどの基本技術の徹底による品質や収量、収益性の向上を推進。

イ 食品産業と連携した産地づくりの推進

JAや県内の製粉業者等と連携し、実需者ニーズの把握と産地情報の発信に努め、産地と実需者との結びつきを一層強化して、産地づくりを推進。

(4) 大豆

煮豆用、豆腐用、味噌用、醤油用など、**多様な用途に応じ、安定した供給**ができるように新たな技術や機械化による省力化を進めるとともに、食品産業が求める高品質大豆の生産を振興。

ア 黒大豆の安定生産と需要拡大

「丹波黒」の生産拡大のため、県・市町やJA、流通・加工業者等で兵庫県丹波黒振興協議会を構成し、①新たな優良系統の選定・導入による大粒で粒ぞろいの良い「丹波黒」の生産や収量向上、②ドローン等を活用した作業の省力・効率的な生産、③新たな食べ方や機能性等の情報発信など、安定生産及び需要拡大を目指した取組を推進。

イ 白大豆の実需者ニーズに対応した生産と生産技術向上

実需者ニーズに応えるとともに、地域の気象条件に適した大豆品種の選定・普及を図りつつ、狭条密植栽培※など**低コスト生産で収量と品質の向上に向けた対策**を実施。

※ 狭条密植栽培：通常より条間を狭く密植する栽培法。雑草抑制、倒伏防止等に有効。

< 県内麦品種別の用途 >

	品 種	用 途
小麦	シロガネコムギ ふくほのか セトデュール ゆめちから せときらら	菓子用 製麺用 醤油用 パン用
大麦	シュンライ	麦茶用
裸麦	キラリモチ 米澤モチ	その他

《栽培管理支援情報サービス(SAKUMO®)を活用した実証試験を実施》

SAKUMO®は、圃場の位置、出芽日、条間隔、土壌パラメータの情報を登録すると、水ストレス係数（必要とする水需要に対する不足の度合い）を目安として灌水時期を可視化。

SAKUMO®を活用した土壌水分の予測に基づく適期灌水の結果、着莢数が向上。



実証ほの様子（多可町）

※ 狭条密植栽培

II 農作物の生産振興方策と取組

(5) 優良な品種の普及（水稻・麦・大豆）

主要農作物種子生産条例（平成30年4月制定）に基づき、本県に適した水稻・麦・大豆品種の優良種子を安定的に供給。

ア 奨励品種の選定と指定

県は、国や県等が育成した水稻・麦・大豆の品種・系統を県立農林水産技術総合センターや現地ほ場で栽培し、**品種特性や栽培適性等を調査**。普及性・市場性等を勘案し、県が積極的に**普及すべき優良な品種を「奨励品種」に指定**。

イ 優良種子の安定生産（原原種、原種生産及び種子生産）

主要農作物種子生産条例に基づき、奨励品種に指定した品種の特性を維持しつつ、優良種子を安定供給。

《種子生産の流れ》

主要農作物種子生産条例に基づく種子生産

原原種生産（3年前）

県立農林水産技術総合センターで生産

原種生産（2年前）

種子生産（1年前）

県下9つの種子組合で生産

一般栽培

（一社）兵庫県農作物改良協会を通じて生産者に種子配布

<兵庫県における奨励品種一覧>

作物名	区分	種類	品種数	品種名
水稻	基幹※1	水稻うるち	5	コシヒカリ、キヌヒカリ、ヒノヒカリ、きぬむすめ、 コノホシ
	特定※2	水稻うるち	5	どんとこい、五百万石(酒)、兵庫北錦(酒)、兵庫夢錦(酒)、山田錦(酒)
		水稻もち	2	ヤマフクモチ、はりまもち
麦類	基幹	小麦	1	シロガネコムギ
	特定	小麦	1	せときらら
	特定	六条大麦	1	シュンライ
	認定※3	小麦	2	ふくほのか、ゆめちから
大豆	基幹	白大豆	1	サチユタカA1号
	認定	白大豆	1	夢さよう

令和7年3月末に指定

※1 品質、収量性、栽培性が優秀かつ広域適応性が高いため県が普及を促進する必要がある品種。
 ※2 品質、収量性、栽培性に優れているが、広域適応性が高いとは認められないため特定の地域、特定の用途又は契約栽培に適するものとして基幹奨励品種に準じて県が普及促進する品種。
 ※3 基幹奨励・特定奨励品種に準ずる収量性及び栽培性を有するが、品質、適応地域の範囲、又は市場性に未確定の事項があるため、暫定的に県が普及する品種。

II 農作物の生産振興方策と取組

(6) 農産物検査

農産物検査法に基づく地域登録検査機関の登録及び監視業務により、流通する米・麦・大豆等の品質の確保及び取扱いの適正化を実施。

ア 地域登録検査機関数（地域別）（令和7年12月末時点）

神戸	阪神	東播磨	北播磨	中播磨	西播磨	但馬	丹波	淡路	合計
8	2	6	15	3	4	9	9	4	60

イ 地域登録検査機関への指導等

(ア) 登録事務

検査機関としての適合性を審査し、登録手続きを実施。

【令和6年度実績】

- ・登録更新[5年ごと] 10件
- ・変更登録 0件
- ・登録事項変更届出 19件
- ・業務規程変更届出 10件

(イ) 立入調査

検査機関の事務所や事業所に立ち入り、検査の状況、関係書類等を調査し、農産物検査法に基づく適正な運用を確認。

【令和6年度実績】

- ・事務所への立入調査 6箇所
- ・検査場所への立入調査 4箇所



検査場所の立入調査（丹波篠山市）

II 農作物の生産振興方策と取組

3 果樹・茶

全国上位品目のいちじくなど、都市近郊の立地条件を最大限に活かし、産地ごとの販売戦略を明確化しながら、供給量の拡大と消費者が求める高品質な果樹・茶の生産を推進。

特に果樹については、県内果樹の振興方針を定めた「兵庫県果樹農業振興計画」（令和3年3月策定）、及び県内主要産地が目指す姿を定めた「果樹産地構造改革計画」（16産地）を踏まえ、優良品種の新植・改植や園地整備など各産地の維持・拡大の取組を支援。

〔果樹経営支援対策による支援〕

【令和6年度実績】

ぶどう3地区、くり2地区、なし1地区、もも2地区

【令和7年度予定】

ぶどう7地区、いちじく1地区、もも1地区



新規のぶどう棚の導入（丹波市）

（1）高品質な果実生産の推進

ア 研究大会による生産技術の向上

先進事例等から新たな技術を学び、生産者が相互に交流を深めるため、品目別に担い手育成対策や高温対策、獣害対策等テーマを設定し研究大会を開催。

〔果樹研究大会の開催〕

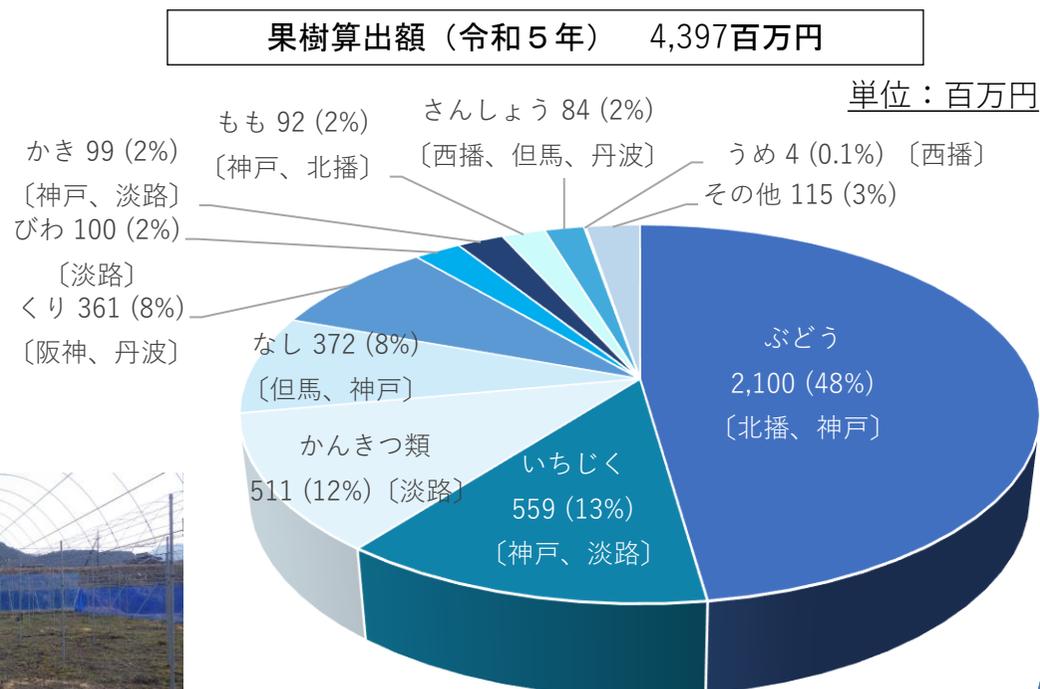
【令和7年度実績（開催地・参加者数）】

いちじく研究大会（川西市・135名）、ぶどう研究大会（丹波市・198名）

かんきつ研究大会（淡路市・64名）、なし研究大会（香美町・75名）



なし栽培管理の負担軽減のために設置した平場のモデル園での現地研修（香美町）



※ 農林水産省統計（農林水産省調べ）、農産園芸課調べ

II 農作物の生産振興方策と取組

イ 西日本一を目指したいちじく産地づくり

いちじくは都市近郊の立地が活かせる収益性の高い果樹として、川西市などで古くから生産。いちじくの生産拡大を支援し、西日本一を目指す産地づくりを推進。

生産者団体等で構成する県果樹研究会との連携により、**県開発技術（オーバーラップ整枝法※等）の普及啓発や病害虫に強い台木の導入等の実証ほを設置し、作付面積の拡大や出荷量増大に向けて産地を支援。**

※ オーバーラップ整枝法：幹を片側の一方に伸ばして、隣接する樹に重なる樹形の整枝法。凍害回避や着果安定等に有効。

《100年目を迎えた川西市のいちじく栽培》

大正14年に梶井ドーフィンが兵庫県に導入されて令和7年で100年になることから、県内のいちじく生産者が一堂に会し、ゆかりの地である川西市で研究大会を開催。

100年の栽培の歴史を振り返るとともに、新たな栽培技術等についての理解を醸成。



ウ 様々なリスクへの対応力の強化

高温や渇水など近年の気象変動に伴う着色不良や果実の肥大不足に対応できるよう、着色が容易な品種への転換やかん水施設の整備を支援。

また、中国での火傷病※の発生による**なし花粉の輸入停止に伴い、北部農業技術センターで採取した花粉を配布**。併せて花粉採取マニュアルを作成・配布し、各産地で自家採取による花粉の確保体制づくりを支援。

※ 火傷病：なし、りんご等の重要病害。感染すると葉や枝が火にあぶられたような症状を示し、樹全体が枯死することもある。日本で未発生のため、発生国からの宿主植物（花粉等）の輸入が停止されている。

(2) 県内茶産地の振興

「丹波篠山茶」「母子茶」など県内茶産地の振興を図るため、生産団体等で構成する県茶振興協議会が中心となり、県茶品評会や研修会の開催を通じて、生産技術向上や、需要開拓の取組等を支援。



茶の生産技術、茶葉の加工技術の向上や改善を図るため品評会を開催（三田市）



高温下でも着色しやすいBKシードレス
 上段：BKシードレス
 下段：ピオーネ

II 農作物の生産振興方策と取組

4 花き

「ひょうご花き振興方策」（令和3年3月）に基づき、生産振興と需要創出の双方から施策を進め、花き産業の好循環を図ることにより、花きの安定生産、県産花きの消費拡大などを推進。

生産振興としては、生花、フラワーアレンジ、ガーデニングなど多様化する消費者ニーズに対応するため、新鮮・多彩・個性豊かな「兵庫の花き」への生産を支援。

需要創出としては、県産花きの認知度向上や、県民が花とふれあう機会を創出・増大させる拠点整備推進など花のあるライフスタイルの普及や景観園芸を推進。

(1) 花きの安定生産の推進

作業の省力化や品質の高い花きの安定生産が図られるよう、**各産地への施設整備や機器の導入、新品種の試作**などを支援。

さらには、夏季の品質低下、生育不良等に対応するため高温対策技術の開発・普及を推進。

《産地の競争力に向けた取組を支援》

花きの産地競争力の強化を図るため、高品質・高付加価値化、低コスト化など、地域の生産者団体等が行う取組を支援。

【令和6年度実績】 3件

【令和7年度予定】 4件



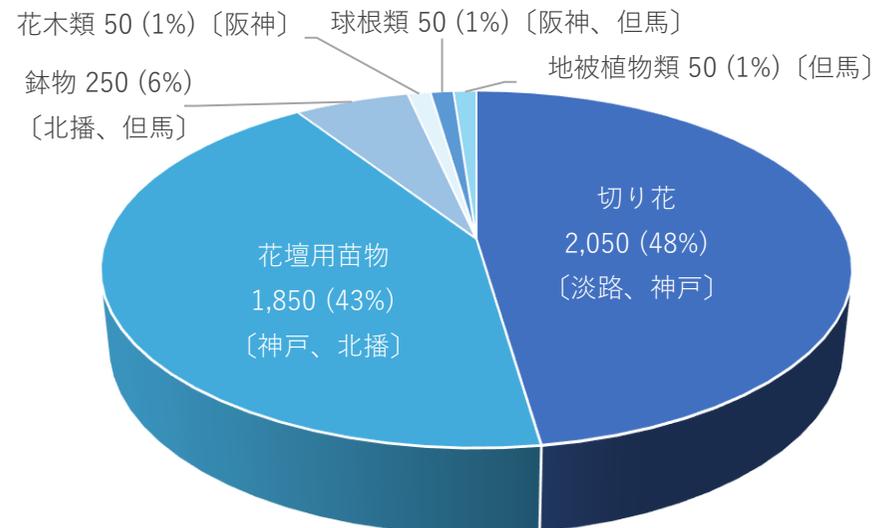
コスト削減のため低価格な輸入球根の導入に向けたチューリップの品種試験（神戸市）



花壇苗の育苗時の高温による枯死軽減のため県開発の根域冷却システムを導入（加西市）

花き・花木類等産出額（令和5年） 4,300百万円

単位：百万円



※ 農林水産省統計（農林水産省調べ）、農産園芸課調べ

II 農作物の生産振興方策と取組

(2) 県産花きの需要拡大

県、県花卉協会、県内生花市場、生花業団体等で構成する兵庫の花づくり推進協議会が中心となり、生産技術の向上と消費拡大を図る「兵庫県花き品評会」の開催や、県産花きの認知度向上と需要拡大に向けた「ひょうごの花キャンペーン」を開催。

また、日本フラワーデザイナー協会等ひょうごの花づくり推進協議会構成員による寄せ植え教室等の実施による花育活動により、花のあるライフスタイルの普及を推進。

〔花育活動の開催実績〕

【令和6年度実績】延べ14回開催（参加者433名）

《県産花きを実需者・消費者にPR》

「第35回兵庫県花き品評会」を(株)JFT姫路生花（花きの卸売市場）で開催。

審査会後は、市場近隣のホームセンターにおいて、農林水産大臣賞を受賞した神戸市産カーネーションをはじめ**出品花きの展示・即売会を開催し**、消費者に県産花きをPR。



市場内で品評会を開催することにより、実需者に県産花きをPR（姫路市）



県産花きを用いた寄せ植え教室（神戸市）

(3) 花とふれあう憩いの場の提供

県立フラワーセンター（加西市）やあわじ花さじき（淡路市）の施設運営などを通じて、県民が花とふれあう機会を広げることにより、景観園芸を推進。

《冬期イルミネーションイベントの開催》

県立フラワーセンターには大温室や大小様々な花壇や樹木園があり、県民に花と緑の憩を提供。

来園者の少ない12月に「花と光のクリスマス」イベントを実施し、中央花壇や大温室内をライトアップ。

【令和7年度実績】イルミネーションイベント
夜間来園者数 10,929人(6日間)



イルミネーションを活用したフラワーセンターの魅力発信

II 農作物の生産振興方策と取組

5 農業機械・生産資材対策

(1) 農業機械の効率的活用と農作業安全対策

認定農業者や集落営農組織の農業機械オペレーターなど、地域農業を支えている農業者に対して、農業機械の高性能・大型化に対応した利用技術の向上と農作業安全対策を推進。

ア 大型特殊自動車免許の取得推進

高性能農業機械の安全使用と効率利用を促進するため、兵庫県農業機械化協会主催の農業用大型トラクター技能講習会の開催回数を増やし、**大型特殊自動車（農耕用）運転免許の取得を推進。**

〈農業用大型トラクター技能講習会 受講者数〉（令和7年度）

会場	豊岡		加西	臨時(加西)※	計
区分	けん引	大型特殊	大型特殊	大型特殊	
受講者数	30	42	120	120	312

※ 豊岡・加西会場の受講申込が定員を大幅に超過したため開催



農業用大型トラクター技能講習会（豊岡市）

イ 農作業安全対策の推進

県内で農作業死亡事故が年間約10件発生している中、農作業事故の撲滅に向け、県内各地で市町・JA等と連携した農作業安全講習会や事故防止の啓発を実施しているほか、農作業安全指導技能向上研修会を開催し、農作業安全指導者を育成。

ウ 中古農業機械の有効活用と流通の促進

農業者の農機具費の低減等につながるように兵庫県農業機械化協会が主催する「兵庫県中古農業機械フェア」の開催を支援。

市町等と連携し、本フェアの周知等を通じて、中古農機の有効活用を促進。

【令和7年度開催実績】成約台数202台、成約金額93,264千円（過去最高）



第31回（令和7年度）中古農業機械フェア（朝来市）

II 農作物の生産振興方策と取組

(2) 肥料の品質保全と公正な取引の確保

肥料の品質の確保等に関する法律に基づく肥料の登録、届出の受理や必要に応じて立入検査を行い、品質を確保するとともに、その公正な取引と安全な施用を確保。

【令和6年度実績】肥料登録：7件 登録更新：28件 肥料販売業届出受理：91件

(3) 肥料・燃油価格高騰対策の実施

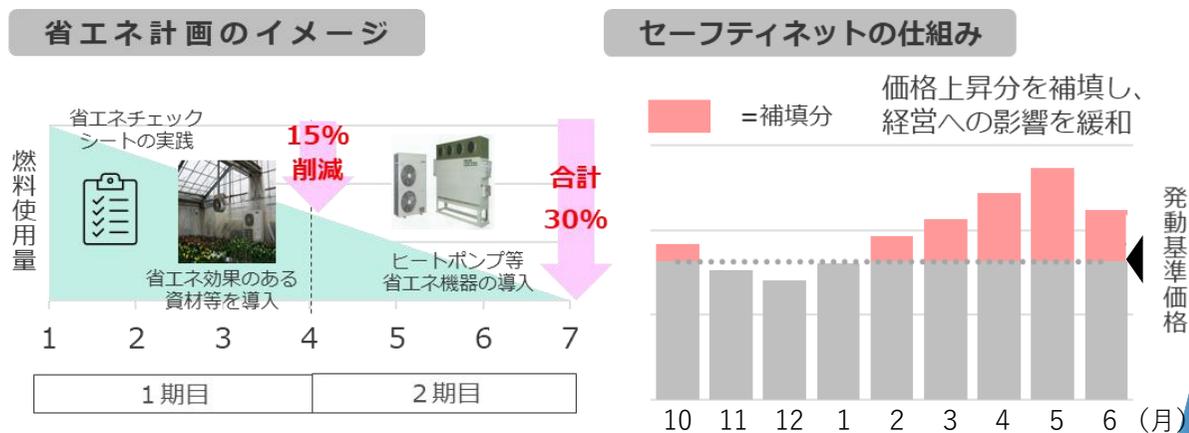
ア 施設園芸の省エネルギー対策

経営費に占める燃料費の割合の高い施設園芸において、農業者と国の拠出により資金を造成し、省エネ計画を策定した農業者に対して、A重油や灯油等の冬期の暖房用燃料の価格高騰時に、補填金を交付するセーフティネット対策を実施。

○支援対象：16産地

○令和6事業年度*補填金：45,081千円

※ 事業年度：令和6年10月～7年9月



イ 国内資源由来肥料の利用拡大

畜産業由来の堆肥や下水汚泥資源等を活用した肥料の利用拡大を進めるため、原料供給事業者、製造業者、農業者等の連携した取組を支援。

(ア) 国内肥料資源由来肥料の製造施設や設備等の整備支援

(イ) ほ場での効果実証や散布機械等の導入

【令和6年度実績】整備支援 堆肥舎改修1カ所（国庫補助：4,043千円）



令和6年度に整備した堆肥舎（丹波市）

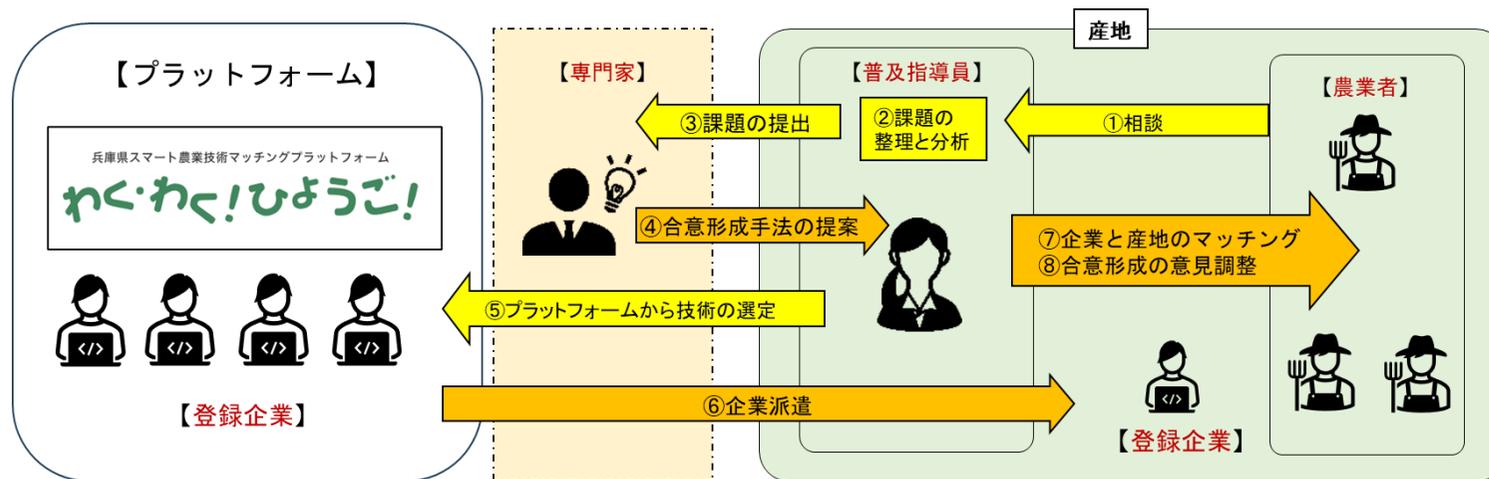
III スマート農業の推進

1 ひょうご型支援体制の構築

担い手の減少や高齢化の進行を踏まえ、生産性の向上や高品質化を図るため、ICT等の先端技術を積極的に活用したスマート農業の普及・定着を促進。

このため、①国や民間等が開発した技術や県立農林水産技術総合センターで研究・開発した技術の実証、②各種支援施策を活用した普及・定着支援、③情報発信の強化、④技術習得機会の充実、⑤相談・指導體制の強化を推進。

令和7年度からは、スマート農業の知見を有する企業等が参画するウェブプラットフォーム（わくわく！ひょうご！）により兵庫県に適したスマート農業技術情報を収集・整理。この情報をもとにスマート農業に精通した専門家が産地課題の解決手法を提案する体制を構築することで速やかな技術導入を支援。



専門家による産地課題に対する合意形成に向けた考え方の説明（赤穂市）



プラットフォームに参画するメーカーによるアシストスーツの実演（加古川市）

2 土地利用型農業のスマート農業技術の普及・定着

(1) 技術の普及の核となる人材の育成

県立農林水産技術総合センター研究員やメーカー技術者、先駆的農業者等を講師に省力効果の高い水稻直播栽培と水管理システムの研修会を開催し、各地域でスマート農業の推進の核となる人材を育成。

III スマート農業の推進

(2) 中小規模の農業者でのスマート農業技術の導入

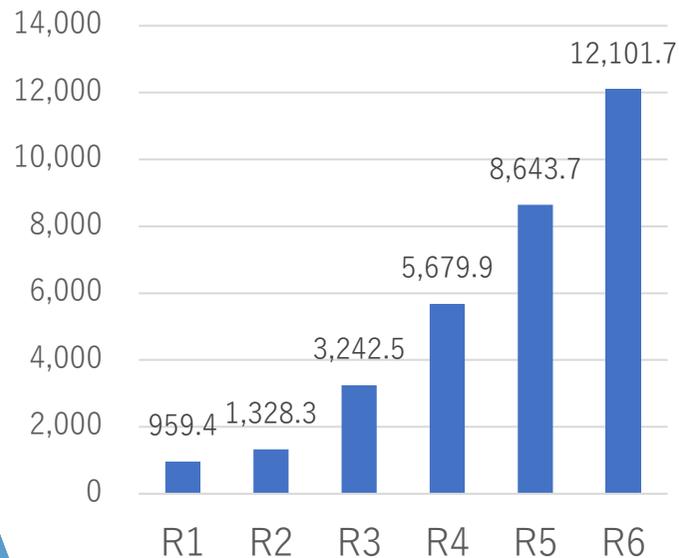
中小規模の農業者ではスマート農業機械の導入は過剰投資となることから、中小規模の農業者に対して農業支援サービス※の活用により、スマート農業技術の導入を推進。このため、**スマート農業機械を活用した農業支援サービス事業体を育成**。

※ 農業支援サービス：農業現場における作業代行やスマート農業技術の有効活用による生産性向上支援等、農業者に対してサービスを提供することで対価を得る業種。データ分析やドローン散布等の作業受託、農業機械のシェアリング等、農業者を支援するサービス。

【土地利用型農業におけるスマート農業技術の種類別導入状況（令和6年度実績）】

ドローンや自動操舵トラクターを中心に12,101.7haで導入。前年度実績（8,643.7ha）比+40%（3,457.4ha）と大幅に増加。

<スマート農業導入実績推移（ha）> [令和6年度技術別内訳]



機種	面積(ha)
ドローン	5,861.7
可変施肥機能 田植機	1,492.2
自動操舵 トラクター	2,347.6
収量等センサー付き コンバイン	837.6
リモコン草刈機	526.4
その他	1,036.2

《高齢化が進む集落営農法人のスマート化》

高齢化が深刻なたつの市のT集落営農法人では、ドローンや水管理システムによる省力化やトラクターの自動操舵システムによる軽労化を実現。また、栽培管理システムによる小麦の赤かび病の適期防除や、スマート農業技術による高品質化も推進。



自動操舵トラクターを使用した直播栽培（たつの市）

III スマート農業の推進

3 施設園芸における環境制御技術の普及・拡大

ICTや栽培管理の自動化などスマート技術を活用した施設園芸（スマートハウス）の推進により、施設野菜等の生産性向上と省力化を推進。

(1) 施設・機器の導入支援

環境制御機器を備えたハウスの新設だけでなく、環境制御技術導入の前段となる環境測定から取り組めるよう、**モニタリング機器単体の導入も可能**とすることでスマートハウスの取組を拡大。

(2) 環境制御技術の習得支援

ア 研修会等の開催

環境制御機器を活用した品質や収量の向上等に資する研修を開催し、技術習得を支援。加えて、近年特に課題となっている夏季高温対策をテーマに研修会を開催。

イ 「次世代施設園芸団地」を拠点とした普及啓発

環境制御技術の先導的かつ大規模な取組である「次世代施設園芸団地」において**研修や視察の受入等を実施**し、次世代を担う人材を育成。

【次世代施設園芸団地(平成27年度整備)の概要】

- ① 生產品目：トマト(栽培面積3.6ha)
- ② 所在地：加西市鶉野(うずらの)町・野条町
- ③ 運営主体：株式会社 兵庫ネクストファーム
- ④ 従業員数：正社員9名、パート等約100名
- ⑤ 施設の暖房に木質チップを利用(脱炭素にも寄与)



センサーによるハウス内の測定（神戸市）



環境制御技術導入施設での研修（神戸市）

○ 環境制御技術の普及状況（令和7年3月末時点）

年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R12目標値
面積 (ha)	18.9	20.3	22.5	26.1	28.1	31.7	60

※ 農産園芸課調べ